

## 【概要版】野菜需給協議会現地協議会 意見交換会

1 日時：平成22年9月2日（木） 8：30～9：30

2 場所：長野県南牧村野辺山基幹集落センター



### 3 議事概要

(1) 全農長野県本部野辺山駐在所から、資料1「長野県の野菜生産について」により説明

- ・ レタス、はくさいなどの主力の出荷時期は6月から10月。数量ウェイトは、県下において、レタスの55%、はくさいの70%、8月についてはレタスの70%、はくさいの80%以上がこの南佐久から出荷される。
- ・ 長野県の行政と協力して、「長野県野菜基本計画」の策定をした。農家の持続的な生産のため、需給に沿った生産に努めてもらうために策定したものである。現在、南佐久地域はレタス類やはくさい類に生産が偏重している傾向にある。計画に基づいてブロッコリーやキャベツなどの品目を振興しながら、産地の多品目化を進めていく。
- ・ 農産物の安心・安全のために、生産者向けのGAP、出荷場向けのGAPに取り組んでいる。
- ・ レタスにおいて、長野県全体の約28%、南佐久地域の30%以上が契約取引である。猛暑で生産が厳しい状況になると、100%契約取引という状況になってしまう場合もある。
- ・ 生産者の経営は、販売価格の低迷、生産コストの増加などにより、非常に厳しい状況である。JAグループ一丸となって、農家の手取りの最大効果を目指している。
- ・ 今年も夏はくさいについて緊急需給調整を実施した。産地としてもできるだけ市場隔離はしたくない。販売、宣伝、契約取引など、あらゆることを積極的に行っても、農家の手取りが赤字になる状況が分かったときに緊急的に実施を要請するのが、産地の実情である。

産地としても、3か月丹精込めて栽培したものを調整隔離するのは非常に辛く、できるだけ実施したくないし、実施しても短期間で済ませたい。

産地の実情を理解して、需給調整事業の発動を検討してもらいたい。

- ・ 価格が低迷し、市場隔離の発動の前に、いかに需要を拡大できるかが重要であると考えている。野菜需給協議会が情報の発信源となって、消費拡大を図ってもらいたい。

(2) 長野県八ヶ岳農協から、資料2「JA長野八ヶ岳の野菜生産について～朝一番のおいしさを食卓へ～日本一の高原野菜供給産地」により、野辺山地域の野菜生産について説明

- ・ 長野八ヶ岳農協は日本一の高原野菜供給産地である。全体としては40品目、1,700万ケースの出荷量である。
- ・ 鮮度を保ちつつ全国の消費地に野菜を届けるため、平成20年から輸送用トラックは全て冷蔵・冷凍車を使用している。また予冷施設も導入している。
- ・ 安心・安全の徹底のため、生産者に作業日誌の記帳と提出を義務付け、集荷場で確認し出荷をしている。
- ・ 野菜の高騰が騒がれているが、決してそんなに高い単価ではない。生産者の卸売価格と小売価格がいつも連動しているわけではない。
- ・ 露地野菜を生産する農家にとっては、野菜価格安定事業が唯一の支えとなっている。

(3) 委員からのコメント

- ・ 早朝というより深夜からの収穫ということや、瑞々しい新鮮なレタスを見ることができて本当に良かった。大変勉強になった。
- ・ 産地と消費者の距離が縮まることに繋がる非常に良い機会であった。
- ・ 農畜産業振興機構や農林水産省のホームページでもっと産地のおいしい野菜の情報を載せられないか。現在ツイッターなどの口コミが話題になっているので利用してはどうか。
- ・ 産地の現状をみると、マスコミの情報に過剰に反応しなくなると思う。
- ・ 今日の説明を聞いて、野菜の安定生産・安定供給のために、産地が様々な努力をしているということが分かった。
- ・ トレーサビリティやホームページでの情報提供があることによって、実際に調べなくてもそれをやっていることで消費者は安心できるのではないか。

最後に座長より、本日の現地の情報を踏まえ、現地の実情を野菜需給協議会会員が把握し、これからの消費拡大に役立てていく旨の発言があり閉会となった。